

佐賀県研究成果情報

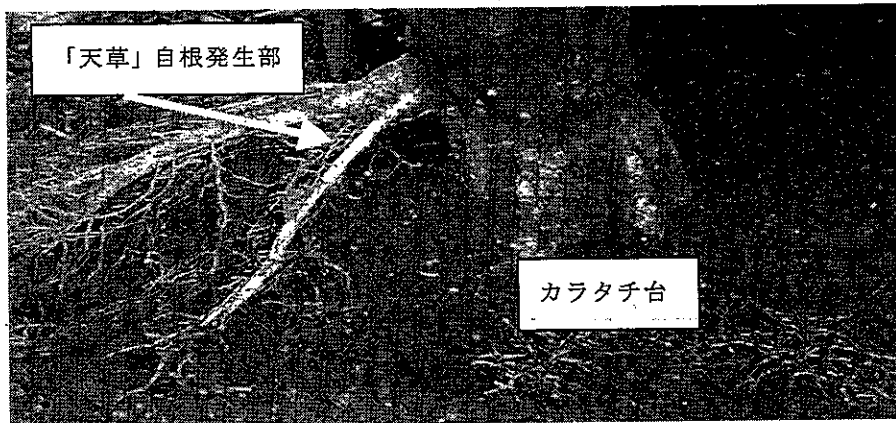
カンキツ「天草」の苗木における自根の発生状況と樹勢及び果実品質

[要約] カンキツ 新品種「天草」の苗木においては自根の発生が多く見られる。この自根は根活力が高いため、自根発生樹は樹冠容積が大きくなるが、果実の糖度、酸度は低くなる。

| | | | | | |
|---------------|----|----|-----|--------------|----------|
| 果樹試験場・常緑果樹研究室 | | | 連絡先 | 0952-73-2275 | |
| 部会名 | 果樹 | 専門 | 栽培 | 対象 | その他のカンキツ |

[背景・ねらい]

苗木で植栽した「天草」では、栽植の状態によって自根の発生が多く見られる。一般に自根の発生した樹は、樹勢が旺盛になり果実品質への影響も大きい。このため、苗木植栽の「天草」における自根の発生実態や自根の発生が樹体、果実品質へ与える影響を把握することにより、「天草」の高品質安定生産のための栽培法を確立する資とする。



「天草」における自根の発生状態

[成果の内容・特徴]

1. 佐賀県果樹試験場内及び佐賀県内のハウス内へ苗木で栽植された「天草」では、その5割程度に自根の発生が見られ、深植えした場合に発生の割合は高い。
2. カラタチ台の主根径に対して根径が約4割大の自根が発生している樹では、樹冠容積が明らかに大きい(表1)。
3. 自根の根活性は、古い根ではカラタチ台木根との差は見られないが、今年新しく発生した根では自根の根活性が高い(表2)
4. 自根の発生した樹の果実品質は、果梗の径がやや大きく腰高で、糖度は明らかに低く酸度も低くなるが、着色への影響は見られない(表3、4)。

[成果の活用面・留意点]

1. 苗木で「天草」栽培に取り組む場合、自根が発生しないよう植え付け時には接ぎ木部を確実に地上部へ出し、深植えにならないよう留意する。
2. 自根が発生した場合には、速やかに切除する。
3. 自根発生樹の果実品質は低いため、収穫時は区分採取を指導する。

[具体的データ]

表1 「天草」の自根発生状態と樹体への影響 (平成12年12月1日)

| 種類 | 調査樹数 | 主根径 | 自根径 | 樹高 | 樹幅(南北) | 樹幅(東西) | 樹冠容積 |
|-------|------|------|------|------|--------|--------|-------------------|
| | | (mm) | (mm) | (m) | (m) | (m) | (m ³) |
| 自根発生樹 | 2 | 76.9 | 33.8 | 2.63 | 2.30 | 2.03 | 8.62 |
| 対照樹 | 2 | 63.7 | | 2.30 | 1.88 | 2.08 | 6.30 |

表2 「天草」の自根発生樹における自根と台木根の根活性 (平成12年11月10日)

| | | 根活性(乾燥重) | 比率 |
|--------|----|-----------|-----|
| | | (ml/g/hr) | |
| カラタチ台根 | 新根 | 0.41 | 100 |
| | 旧根 | 0.31 | 77 |
| 天草自根 | 新根 | 0.56 | 136 |
| | 旧根 | 0.32 | 79 |

表3 「天草」の自根発生による果実品質への影響 (平成12年12月1日)

| 種類 | 横径 | 果形指数 | 果実重 | 果肉歩合 | じょうのう数 | 果梗径 | 糖度 | 酸度 |
|-------|------|-------|-----|------|--------|------|------|------|
| | (mm) | | (g) | (%) | (個) | (mm) | | (%) |
| 自根発生樹 | 81.8 | 119.3 | 251 | 86.0 | 11.2 | 4.0 | 10.4 | 0.90 |
| 対照樹 | 81.6 | 126.9 | 235 | 86.0 | 11.4 | 3.3 | 12.7 | 1.18 |

表4 「天草」の自根発生による果皮色(a値)への影響 (平成12年12月1日)

| 種類 | 赤道面 | | 果頂部 |
|-----|-------|-------|------|
| | 着色良好部 | 着色不良部 | |
| | 自根発生樹 | 29.0 | |
| 対照樹 | 29.1 | 21.9 | 30.5 |

[その他]

研究課題名：新中晩生カンキツの施設利用による高品質安定生産技術の開発

予算区分：国庫助成(新技術地域実用化)

研究期間：平成11年～15年

研究担当者：平野稔邦、篠倉耕作、新堂高広

発表論文等：平成12年度常緑果樹試験研究成績概要集